

みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071
 社会福祉法人 松樹会 枚方市交北2丁目10番1号 ☎072-898-2197
 URL <http://midori.jp.org/> E-mail midorii@io.ocn.ne.jp

編集責任者：理事長 中村 猛
 編集：季刊誌発行委員会

第14号所感

理事長 中村 猛



皆さんこんにちは。

10月も半ばを越え、本格的な秋の到来で、あたりの田圃では稲刈り収穫も終わり、運動会、秋祭り等の行事も最盛期を迎えております。

社会はアメリカに端を発したサブプライムローンの破綻から、底の見えない株暴落で経済恐慌の嵐が吹きすさみ、物価高・収入減で消費の落ち込みが激しくなっております。

一方、政治の世界はアメリカ大統領選も、いよいよ1ヶ月以内に民主党オバマ、共和党マケイン両候補の決着がつく最終段階を迎えており、わが国も衆議院解散総選挙が真近となってまいりました。

世界も日本も情報公開のグローバル化の中、オイルをはじめとした資源保有の巨大なマネー蓄積と、一方多数をしめる低所得者の貧困、虐待等々のますますの格差が生じております。

汗と努力の継続した物作りを基盤とした妥当な収入で社会構成が成り立つ、いわゆる自然との調和のとれた社会を築いていきたいもので、不当なマネーゲームで巨額の資産を得た人々は、そのエネルギーを、我々の地球以外の宇宙で特異な世界を作って我々の庶民生活から不当な搾取をしないようしてもらいたいなあと思ったりします。

さて、私共の医療法人みどり会では、この10月からサテライト老健施設が29床の小規模施設として親老健のなごみの里の近隣にオープンしました。

リハビリの加療を強化して短期入所で50%の在宅復帰率に持っていかうという完全個室のユニット形式であります。電子カルテシステムで業務の合理化・情報共有化をはかり日勤業務を重視して利用者の生活リズムに合わせた三交替制をとり、全国に先がけたサテライト老健として大阪府の要請により運営の検証をすることになっております。

小規模ながら色々な取り組みがもり込まれており、約30名のスタッフが直接業務に当たるとともに、我々法人全体でのバックアップをして参る所存でございます。

私共法人では医療福祉分野で患者様利用者の方々にご利用していただくため急性・慢性疾患、リハビリ、各種高齢者、障害者入所施設等それぞれの守備範囲特長をもった7施設を運営しておるわけですが、やはり最低限の所得で利用できる施設としての受け皿は、現在のところ病院の療養型病棟が医療保険を使ってその役目を担っている結果と出ております。

現在、我々の枚方市にも高齢者施設として余り規制にかからない厚労省の有料老人ホームや国交省の高齢者専用賃貸住宅が作られていますが、現実なかなか最低基準の所得では利用できない矛盾をかかえて

おり、早急にこうした方々の受け皿が必要と思われます。

来年度は、介護保険の改定年度となりますが国の公平な安心した社会保障への対応に期待したいと思います。



サテライトなごみの里 開所式・内覧会 開催

9月18日に介護老人保健施設サテライトなごみの里の開所式を挙行了いたしました。

みどり会の関連施設の中で、小規模の施設（29床）のサテライトということもあって、内部関係者で開所式をいたしました。中村理事長の挨拶の中で、「今回の施設は小規模ではあるが、運営に関しては多くの新しい取り組みが試みようとしている。この施設で導入した新しい取り組みが成果を挙げられることに期待したい」と述べられた。この言葉を受け、配属責任者が決意を述べ、施設のこの先の運営が希望に満ちた方向性を感じました。唯一部外者で、施工者の大和ハウス工業様にはみどり会より感謝状を贈呈し、同社より記念品を頂戴いたしました。

サテライトなごみの里配属スタッフと理事長が大和ハウス工業様をお招きして祝賀会の宴をいたしました。

建設に係る労をねぎらい、また、これからの施設運営の抱負について和やかに語り合いました。

9月19日、20日は施設の内覧会を開催し、来訪していただいた方々を施設のご案内いたしました。

近隣の介護サービス事業者の方や地域の方は2日間で200人近く来て頂き、みなさんからの質問を受け、新しい施設に期待していただいていることを感じました。

10月1日には無事オープンを迎え、順調に入所者を迎えております。

これから、ご利用者に喜ばれる施設を目指して参りたいと存じています。

(記：山中)



在宅訪問診療活動報告

副院長 高橋 輝

中村病院在宅医療部では在宅や施設への訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問介護を行っています。私が担当している在宅訪問診療は毎週水曜日の午後に実施しています。診察、採血、簡単な外傷処置、処方箋の発行などが可能です。私は内科医ですが、在宅では内科以外の生活全般に関する問題に対処が求められます。御家族には、在宅での初期対応や生活指導、今後の病状変化に対する指示など、わかりやすく説明するように心掛けております。

在宅医療は診療所でも行われていると思いますが、病院が在宅医療を行う一番の強みは、いざという時に入院受け入れができることと、24時間対応できる点にあります。訪問診療は24時間体制では行っておりませんが、病院には常に医師がいますので、何かあった時の対応は病院にて行うことが可能です。さらに、中村病院だけでなく、関連施設での受け入れや、医師以外の訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問介護など多職種による包括的なサポートにより、在宅医療に伴う様々な問題への対応が可能です。

現在の医療制度は在宅医療を推進する方策がとられていますので、在宅にて看たいという御家族の希望に沿えるようなサポート体制を皆様に提供できるよう努力しております。在宅医療に求められる総合力を発揮するために、在宅医療部を中心に頑張っております。



中村記念病院

患者様食事の工夫

管理栄養士 市原 美矢子



中村記念病院にリハビリテーション目的で入院されている多くの患者様は、一日も早い自宅復帰を待ち望み、ハードなリハビリに励まれており、入院生活のなかでの食事の時間は大きな楽しみの一つではないかと思っています。

その患者様に、少しでも出来たての温かいおいしい食事を味わっていただけるよう、厨房のない当院では、衛生

管理が徹底され、品質の安全な美味しい食事を提供できるというクックチルスシステムで調理されたものを、機内食カートを活用し、適時適温で配食するケータリング方式によって患者様に提供しております。

患者様によって嗜好はそれぞれ異なり、当然、食事に対する評価も千差万別だと思います。そんな患者様の声を、日々の業務の中で、また退院時のアンケートなどから拾い出し、業者を交えた給食委員会でいろいろと検討を重ねております。

さらには、通常の食事だけでなく、季節にあったメニューや、行事食、退院時のお祝い膳など特別食としてご用意させていただきます、患者様に喜んでいただけるよう工夫をこらしております。

食事に対しての要望には可能な限り対応できるよう努力をし、患者様に満足のいただける食事をめざしていくことが中村記念病院での私の仕事であると考えています。特に、摂食・嚥下障害の患者様には、言語療法士、看護師と相談し、適切な食材を工夫してリハビリテーションの役に立てるよう心がけています。

最近大きな問題となりました「事故米」の不正使用など、私どもで防ぎようのない事件には大変な憤りを感じます。多くの患者様の健康を預かる私としては、常に基本に戻り、これからも、患者様を中心とした食事づくりに頑張っております。



退院時御祝膳

リハビリテーションの知識・技術の向上をめざし

リハビリテーション科 課長 清 家 康 伸

中村記念病院も開院して早2年半が過ぎようとしています。当院ではこれまでから、患者様の一日も早い社会復帰を願い、質的にも量的にも均一なリハビリテーションサービスの提供に努めてまいりました。

そのために、リハビリテーションスタッフを院外での研修会へ積極的に参加させフィードバックさせるとともに、昨年度よりリハビリスタッフを中心とした院内での勉強会を月2回定期的に行い、知識・技術の向上をめざしております。

今年度は更に内容を充実させるために、当院でリハビリテーションに関わる医師による講義を5回開催いたしました。

リハビリテーションに視点を置いた講義であったため非常に興味深く、臨床場面でも患者様のリハビリテーションに有益である内容となり、より充実した勉強会になったものと思います。

勉強会には当院のリハビリスタッフは勿論のこと他部署の職員にも参加いただき、また、関連施設の中村病院、介護老人保健施設などからの里からも多くのリハビリスタッフの参加をいただくことができました。

今後も、みどり会におけるリハビリテーションの質の向上に自己研鑽は勿論のこと、常に初心を忘れず、積極的に新しい訓練方法の取り組みなどを行っていききたいと思います。

最後に、大変お忙しい中にもかかわらず講義に快くご協力いただいた吉田教授、佐々木先生、笠井先生には深く感謝申し上げますと共に今後なお一層のご指導をお願いするものです。



吉田教授



佐々木先生



笠井先生

8月7日 人工関節のリハビリテーション

関西医科大学 附属病院 リハビリテーション科 教授 吉田 清 和先生

9月4日 わかるシリーズ①「頭部画像診断」

中村記念病院 笠井 治 文先生

9月18日 わかるシリーズ②「脳梗塞」

中村記念病院 笠井 治 文先生

10月20日 線維性筋痛症について

関西医科大学 附属病院 リハビリテーション科 教授 吉田 清 和先生

10月27日 大腿骨頸部骨折、脊柱管狭窄症について

関西医科大学 附属病院 リハビリテーション科 佐々木 万弓先生

■ サテライトなごみの里 入所スタート ～リハビリ強化・在宅復帰支援施設を目指す～

介護老人保健施設サテライトなごみの里は、特に、在宅復帰、支援機能の強化することを目指します。

本体施設である なごみの里 とは若干違ったアプローチの仕方をする計画を立てていますので、その幾つかの取り組みを紹介いたします。

① ユニットケア

個人のプライバシーを尊重し、ご利用者にあった個別ケアを行っていきます。

② 電子カルテの導入

情報の共有を行うと共に、昨今のケアの中で増え続ける記録業務を省力化していきます。

③ 在宅復帰支援パス

ご利用者と家族様に今、施設内でどんなことをしているのか？これからどのように進めていくのか？在宅復帰のイメージをどのように持つのか？等の情報提供をし、ご利用者の立場に立って、わかり易くいたします。また、職員間の連携の強化と情報の共有及び提供するサービスの質の平準化等を導入して参ります。

④ リハビリの充実

本体施設のリハビリ部門の強力なバックアップを得て、週5回（短期集中リハビリ対象者）のリハビリを提供するようにしてまいります。

⑤ 三交替制の導入

日常生活時間に手厚く職員を配置し、利用者様のニーズに応えます。

このような取り組みをし、在宅復帰が可能なよう強力にサポートします。

皆様のご利用についてのお問い合わせお待ちしております。

併設の「デイサービスセンター長尾の里」（定員10名）は、絵手紙、料理クラブ、おやつ作り、マージャン等趣味的な活動をしていただき、1日が楽しめるプログラムを用意してご利用をお待ちしております。（記：山中）



■ 家族介護教室を開催

（社）大阪介護老人保健施設協会主催の家族介護教室が「なごみの里」の世話役で、9月25日に枚方市民会館第5集会室で開かれました。

枚方の一般市民と北河内地区の方々を対象とする『認知症サポーター養成講座』でした。

まず、医療法人みどり会中村理事長の挨拶で始まり、引き続き、枚方市高齢社会室の永井良典氏から認知症について分かりやすく1時間程度、講義していただきました。

受講者の皆さまが認知症について理解を深められたところで、当施設で認知症に取り組んでいる臨床心理士の玉置 賢が『認知症の進行予防について』と題し、現場で日頃研究している事例を基に講演し、最後に、当法人のグループホームたんぼぼ長尾管理者の中島亜矢子が『グループホームにおける生活の様子』の実例を挙げて報告しました。

受講者は予定以上の総勢91名でした。この方々に地域で認知症サポーターとして活動していただくようお願いし、テキストとこの活動者であることを印すオレンジリングを配布し、成功裡に閉会いたしました。（記：山中）



在宅部門

■ ケアプランセンターなごみの運営について — ケアプランセンターなごみ管理者 佐藤 嘉枝



9月1日、老健なごみの里内に「ケアプランセンターなごみ」と称する居宅介護支援事業所を開設いたしました。メンバーは佐藤と林の両名が居宅介護支援センターつくしんぼから異動し、新しく、グループホーム・たんぼぼ藤阪より大野を加えて、3名のケアマネジャーでスタートいたしました。

せっかく病気を治し、リハビリを受けてご自宅に戻られても、ご本人や家族様に不安や支障が残ったままでは楽しい生活を営むことはできません。ずっとご自宅での生活を続けておられる方でも、何らかの事由により生活の上での問題が発生することもあります。

そのような不安や支障を解消させていただくために、私たちケアマネジャーが介護サービスを紹介しながらご自宅での生活を支援させていただくのです。

支援といっても、それは介護保険サービスを利用することについての情報提供と手配のことで、実際には、人生の大先輩であるご利用者から社会的知恵と知識を教わることの方が多く、私たちは何時も楽しくお付き合いさせていただいております。

ご利用者が住み慣れたご自宅で、暖かいご家族の元でいつまでも楽しく過ごしていただけることができますよう、永いながい人生マラソンの後半を、時に寄り添い、時に教わり、時に叱咤激励しながら併走させていただきたいと思っております。

「あんと出会えてよかったよ」と言っていたことができることができれば、それが私たちには何物にも替えがたい最高の喜びです。

基本理念

利用者様の人間性や尊厳を尊重し、個々の願いに応じたサービスや環境を提供します。

基本方針

1. 利用者様の立場に立ったサービス提供に努めます。
2. 利用者様の有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るように援助します。
3. 利用者様の心身状態に応じたサービスを提供できるように援助します。

■ 入居者家族会を開催

いこいの里 施設長代理 岡崎 基



特別養護老人ホームいこいの里では8月23日に初めて入居者家族会を開きました。この度の家族会の趣旨としましては、家族様とともに入居者様がいこいの里でより良い生活を過ごしていただけるような意見交換の場と考えております。

今回の家族会は9月に行いました「いこいの里祭り」の行事計画の説明や今後の行事予定、いこいの里の健康管理について、などをお話しました。急な参加

のご案内でしたが12名の家族様に参加いただき、活発な意見をいただきました。ある家族様からは「入所当時より段々と出来て

いたことが出来なくなっています。施設側で出来ること、出来ないことがあれば教えてほしい。」というご意見もいただきました。いこいの里では5月より各フロアをケアマネジャーが担当しています。施設内での生活についてなどは各階担当のケアマネジャーにお尋ねいただければと思います。

いこいの里も開設してから1年と半年が過ぎましたが、こうした家族様からの声で改めて生活の場として気付かされることもあります。今後も、年に2～3回は定期的に開催できるように企画していきたいと考えております。次回には多数の家族様と幅広いご意見をいただき、より良い施設運営に活かしていければと思います。

■ 若手職員との研修会を終えて

去る、10月16日に若手職員との研修会が行われました。

この研修会は、若手職員の考えを直接聞くことにより、アイデア等、活発な意見を聞き、今後の各施設運営にいかしていこうと、中村理事長の提案で、本年度より開催し今回で2回目となります。

今回は、新たに各施設より12名の職員が参加し、あらかじめ設定したテーマに沿って、各自3分程度で全員が発表しました。

研修会発表の中には、まだまだ要望に留まっている意見も多く、本研修会の目的でもある具体的に実行するための若手職員ならではのアイデア、活発な意見を導き出し、これを実現することにより、各施設のご利用者様により良い施設サービスを提供できることを目指して、今後も継続的に研修会を開催していきたいと考えております。

今後の具体的な活動においては、研修会の中で多くの意見がでた「各施設間の人材交流、相互理解による連携の強化の実現」をテーマに、参加者が実行委員会を発足させ、そのメンバーとなり活動を開始します。

(記：本部 梶河)



■ 平成20年度

ボーリング大会を終えて

親和会 会長 高井 暢子

先日、平成20年度ボーリング大会が開催され、多くの職員の方に参加して頂きました。開催地は例年通りボーリング大会をWAVE34、食事会をやまきにて開催しました。

今回のボーリング大会では例年とは違い、施設単位でのチーム編成とし、職場の仲間同士での楽しい時間が過ごせることを目的としました。また、食事会での表彰式では、上位入賞者だけではなく、できるだけ多くの方に賞金や景品が渡せるように役員で調整して頂きました。

当日は中村猛理理事長による始球式から始まり、それぞれのレーンで業務終了後とは思えないほどの盛り上がりを感じました。食事会でも、表彰式で名前を呼ばれる度に会場が盛り上がり、多くの方に楽しんで頂けたのではないかと思います。

12月には役員として最後の仕事になります忘年会を開催する予定となっております。ボーリング大会以上に盛大に開催しようと考えておりますので、たくさんの方の御参加をお待ちしております。

■ 各施設連絡先

● 社会福祉法人 松樹会 ●

特別養護老人ホーム いこいの里 072-898-2197
居宅介護支援センター つくしんぼ 072-898-2196
つくしんぼ 長尾 072-868-2190
デイサービスセンター 長尾 072-868-2190
有償運送事業(福祉タクシー) 072-868-2190
つくしんぼ 藤阪 072-868-2191
たんぼぼ 藤阪 072-868-2197

鍼灸接骨院 つぐみ 072-836-8280

● 医療法人 みどり会 ●

中村病院 072-868-2071
地域医療相談室 072-868-2071
中村記念病院 072-868-2070
なごみの里 072-868-2072
サテライトなごみの里 072-818-2071
たんぼぼ 長尾 072-868-2195
訪問看護ステーション 072-868-2071
訪問介護ステーション みどり 072-868-4392
枚方市地域包括支援センター みどり 072-845-2002
みどり保育所 072-850-7550

—— 編集後記 ——

医療法人みどり会のサテライトなごみの里が10月1日開設し社会福祉法人松樹会とあわせて7つ目の施設となりました。入院、入所施設等549床、職員数も500名を越える法人となり、医療・福祉・健康分野における社会的貢献に更なる努力を重ねていかなくてはならないと痛感しております。各御利用者様はじめ、各関係機関の御支援、御指導、御叱責を頂きますようお願いいたします。

みどりの風発行委員会
連絡先 ☎072-868-2071
法人本部 松田